



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.43
2014年 2月号

公益財団法人

School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

農場の作物

2014年も2カ月終わりましたが、農場は今年まだ1度も雨が降っていません。月に1度くらいは降るものだと思っていたのですが、全く降りません。気温も徐々に上がってきており、3、4月とカンボジアで一番暑い時期に入ります。なかなか大変な時期ですが、その代わりこれからマンゴーのシーズンになります。カンボジアではマンゴーが1kg(大体3個)で50~75円と破格の値段で買えます。観光するには厳しい時期ですが、一番カンボジアらしさを感じることもできる時期だと思います。機会があればぜひカンボジアまでお越しください。

今回は農場で作っている作物の現状について報告させていただきます。

①水稲

水稲は2期作目の稲刈りが全て完了しました。今年度は2期作目の1反(≒1000㎡)当りの籾収量が約150kgと前年の約100kgを大きく上回る結果となりました。要因としては前年よりも養分となる有機物を多く投与したこと、田植えを雨季真っ只中の10月上旬に行うことで水管理が容易にできたことが挙げられます。4年目にして2期作の栽培方法が大分確立されてきました。2014年度は2期作合計で反当たり400kg以上を目標にしたいと思います。

②レモングラス

12月辺りから生育が緩慢になり、収穫量が減っていました。原因は肥料不足です。レモングラスは養分が少なくてもできると思っていたのですが、継続して収穫するには養分が必要だと気づき、1月から鶏糞の投与を開始しました。1月に鶏糞を散布した畑のレモングラスは葉の色が良くなり、生育も早くなっているのが鶏糞の効果を実感しています。今は乾季なので灌水作業と追肥を継続して行い、品質の良いレモングラスを安定して出荷できる体制を作っていきます。

③根菜類(サツマイモ、里芋、生姜)

サツマイモを2月に収穫しました。結果は1反当たり500kgでした。日本の標準が2500kgと言われているのでその5分の1という結果です。水と肥料のやり方が良くなかったと思われます。そして、次こそはしっかり作ろうと決意し、先日ツアーで来場していただいたワタミグループの方々にサツマイモの定植作業をしていただきました。暑い中協力していただいたからにはこのサツマイモを何としても上手に育てねばと考えています。里芋は生育していますが、順調とはいえません。里芋は水を好む作物なので灌水しても水が追いついていない状態です。雨季の方が向いていると思われ、雨季に再度作付します。生姜は発芽が上手くいきませんでした。種の



ワタミグループの方々にサツマイモの定植作業を手伝っていただきました。本当にありがとうございます。

選定、作付の時期と方法について改善が必要だと思われます。カンボジアで生姜を育てている日本人の方にカンボジアでの植え方を教えていただいたので、次に植える時に実践してみます。以上のように根菜類は課題が多いのですが、農場の土壌と気候には適した作物だと思うので2014年も試験栽培を行い、農場に適した栽培方法を模索していきます。

④果菜類(トマト、ナス)

果菜類は農場の中では一番養分のある場所に植え、植える前に有機物を多く投与したため、生育は順調です。果菜類の特徴は管理作業が多い為、上手くできるかどうかは管理する人に左右されやすいということです。今は私が管理作業をメインでやっています。今は自分の出来ることをやらせていただいています。また、2月の講習会では果菜類を栽培するうえで必要な作業である芽かきと誘引の作業を行いました。芽かきとは余分な芽を取り除くことで植物の養分が必要なところに行くようにする作業であり、誘引とは支柱などに作物を縛ることで作物が地面につかないようにする作業のことです。果菜類も根菜類同様、カンボジアで適した栽培方法を見つけ、現地スタッフにやり方を伝え、現地スタッフや現地の農家さんでも安定して作ることができるようにしていければと思います。

⑤スーパーソルガム

スーパーソルガムは草丈が4~5mにもなると言われているのですが、農場で作ったものは大きいもので1.7mくらいでした。大きくなる為には養分がかなり必要らしく、聞くところによると鶏糞を1反当り5tくらい撒く必要があるということでした。今後も試験を継続し、カンボジアで普及することが可能かを検討していきます。

以上のように成果よりは課題の多い2013年度乾季の栽培です。2014年度は各作物のよりよい栽培方法、栽培時期を確立できるように行動していきます。また、各作物の収支分析を行い、講習会では分析の結果を農家さんに伝え、収益の出る作物の講習を重点的に行えればと考えています。そして、どの作物を作るにせよ良い土を作っていくことが農業をするうえでは何よりも肝心です。その為、継続して有機物を投与することで農場の土が作物を作るのに適した土へと成長させていきたいと思っています。有機物を大量に確保する為にも今育てている鶏を増やし、鶏糞をより多く確保出来るようにしていく必要もあります。やるべきことが多いのですが、やるべきことが明確になっているので後はとにかくやるだけです。現地スタッフや地元の農家さんと共にカンボジアの農業を少しでも良くできるように頑張りたいと思います。



2月の講習会ではトマトの芽かきと誘引について説明をしました。4名の農家さんに参加していただき、その内1人の農家さんは特に真剣に聞いて下さり、ノートにメモを取っていました。

編集後記

今はナスとトマトの管理作業を日々行っています。日本にいた時は果菜類の栽培はあまりやっていなかったため調べたり聞いたりしながらやっていますが、作業をするにつれて分かることも増え、今更ながら農業の楽しさを改めて感じています。明るく前向きに日々の業務を行っていきたいと思います。

早藤